

開催報告

令和6年3月7日(木) 15:00-16:30、研究大学コンソーシアム「学術情報流通の在り方に関する連絡会」の主催により学術情報流通に関する連続セミナー(第2回)「オープンアクセスの国際動向とダイヤモンドOAの展開」を開催しました。

講師に西川 開助教(筑波大学 図書館情報メディア系)を招き、オープンアクセス運動が盛んになった2002年から現在にいたるまでの流れ、オープンアクセスが当初の理念と異なる方向へ進んできた要因や課題について解説していただきました。さらに、近年話題となっているダイヤモンドOAの実態について詳しくご説明いただきました。質疑応答は小泉周特任教授(自然科学研究機構・東北大学)の司会で行われました。会場・オンラインから多くの質問やコメントが寄せられ、オープンアクセスの動向への強い関心を感じさせました。

■参加者数 232名(対面15名、オンライン217名)

■アンケート結果 回答数:134

○職種

大学職員(図書系):97 大学職員(研究推進系):8 URA:9 大学教員・研究職:3

出版関係者:2 その他:15

○機関

国立大学:85 私立大学:22 公立大学:7 その他:20

○セミナーは参考になりましたか

とてもよかった:98 よかった:32 あまりよくなかった:3 よくなかった:1

○ご意見・ご感想 ※公開の同意をいただいたものです。

【URA】

- わかりやすい解説をいただき、大変勉強になりました。
- 専門外で系統だった話を聞いたことがなかったので勉強になった。
- 非常に多岐にわたる講演で大変参考になりました。
- 国の政策として、即時OAと言いつつも、オープンアンドクローズ戦略と言っており、OAのみを推進するものと考えてはいない(とはいえ、文科省などからは成果報告を求められるものでしょう)。むしろ、OAが過度に進みすぎることにより、プレプリントと区別できない流通が生じることによって、質保証された成果報告を得

ることができなくなるのではないかと懸念している。特に古今はAIの台頭やハゲタカジャーナルなど、学術の品質を揺るがすような状況にもなっている。その中でダイヤモンド OA を進める欧米諸国はどのように質保証がなされると考えているのかも知りたいところである。

- 大変勉強になりました。ありがとうございました。

【大学職員（図書系）】

- ダイヤモンド OA について知る機会となった。
- Slido の質問への講師のご回答を、ウェブサイトで共有いただけるとありがたいです。
- 権利保持戦略が大切ということが、理解できました。それと、研究権？ですか。すぐにはすすまないとはいいますが、注目していきたいと思います。
- 質疑応答時の会場の雰囲気よさそうで、対面参加を試みたくなりました。
- 年度末は業務との兼ね合いで、オンラインでもなかなか集中して視聴できません。また後日視聴するにも 90 分は長く感じます。ミニセミナーやレクチャーなど 30 分以内での単発セミナーがあると当日以外でも視聴しやすく助かります。検討いただけますと幸いです。
- オープンアクセスの歴史から最新動向までを知ることができた。講演内で紹介された文献も読んでみたい。
- 今後も西川先生のように、業界的にフレッシュな方の登壇を期待します。
- 質疑応答の時間がもっと長いとありがたかったですが、登壇者も疲れてしまいますよね。大変参考になりました。ありがとうございました。
- 大変、ためになりました。OA 化の理念はわかったつもりでいましたが、転換契約の潮流には納得いかず、ずっともやもやしており、その潮流からは一步引いたスタンスでした。今回、腑に落ちた感じです。とはいえ、まだまだ勉強が足りないことも多いに感じました。貴重な時間でした。企画、ありがとうございました。
- 日本でも即時 OA 化への取り組みが本格化していく中で、欧州等での先行した状況を詳説いただき、たいへん勉強になりました。
- エンバーゴ期間なしのグリーン OA 実現と権利保持戦略についてももう少し詳しく聞きたいと思いました。
- オープンアクセスの国際動向を OA 推進のはじまりから振り返って概説いただき、改めて大変勉強になりました。また転換契約や国の OA 方針でゴールド／グリーン OA に意識が向きがちな今、ダイヤモンド OA (OA コモンズ) のアプローチも考えることができ、視野が開けた（偏りが正された）感じがしました。ご講演ありがとうございました。
- エンバーゴなしのグリーン OA を実現するためには何が必要でしょうか。
- このセミナーシリーズはいつも大変参考になります。今回のセミナーでもおっしゃっ

ていましたが、毎回情報が多すぎて満腹感が高く、次のセミナーも大変楽しみにしています。

- 音量を最大にして聞いていたが、登壇された先生の声がマイクが拾いきれていなかったせいか、とても聞きずらかった。
- ダイヤモンド OA は言葉として知っているだけだったため、最新動向をお話しただけで大変勉強になりました。即時 OA 方針への私見は、西川先生や質問された方と似たところがあり頭の整理ができましたが、今後、組織体制や職員の配置状況等により、こうした政策や動向への対応ができる大学とできない大学との格差がますます広がり、二極化が進むような気がしています。
- 本日、西川先生にご紹介いただいた「知識コモンズ」という概念について、大変興味深く感じました。今後勉強させていただきます。
- OA 化の流れについて、基本的なことがよくわかりました。これからも図書館や研究支援担当部署の経験が浅いスタッフにも分かりやすい内容のものも続けてください。
- 大変参考になりました。ダイヤモンド OA の広がりや現状の OA に関する問題点を解決する一つの手段になるかとは思いますが、先生方にマインドを切り替えていただくこと、すなわち高 IF ジャーナルからダイヤモンド OA 誌の方へ視点を変えていただくことは、安い APC のジャーナルよりも高い IF を持つ高額な APC を要求するジャーナルの方が未だ人気があることを考えると、一筋縄ではいかないのではないかと考えてしまいます。G7 以降 OA に関して色々動きがありましたので、それによって多くの方にこの問題を意識していただき、よりよい方策が見つかっていけば良いなと思います。
- ダイヤモンド OA についての動向や状況のお話もちろん勉強になったのですが、図書館職員として応えるべき内容がたくさん取り上げられた Poynder のインタビューをご紹介いただけたのもよかったです。
- 前提となる基礎知識から、今回のトピック（ダイヤモンド OA）までまんべんなくご解説があり大変理解が深まりました。Slido への投稿を会場でも投影して下さると良かったかと思います。
- 個々の情報（Scholarly Kitchen の記事など）には触れることがあるものの、掘り下げた読み解きができないので、今回のようなお話は助かると感じます（それで終わってはいけないのですが）。
- これまでの OA モデルの問題を背景としたダイヤモンド OA 成り立ちの経緯から、今後の課題まで大変わかりやすく伺いすることができました。と同時に、今後の学術雑誌流通問題について、明るい兆しが一向に見えてくることが無く、不安材料ばかりを覚えてしまいます。この問題を少しずつでも改善していくために今図書館がとめられていることはどのようなものがあるのでしょうか（転換契約の導入は問題解決とはなり得ないと認識しています）。今後その様な話題が提案されていくことを願っ

ております。

- ダイヤモンド OA やオープンインフラの可能性に期待したいところですが、やはり「主体性の欠如」から OA 運動の二の舞にならないかと危惧しています。
- 日常業務だけではフォローできないオープンアクセスの最新動向について知る機会を設けて頂き感謝しています。ありがとうございます。自分自身の実力不足を棚に上げた意見になりますが、予備知識無しでは難しい箇所もあったように思います。事前に必要な知識等あれば参考資料等アナウンス頂けるとありがたいです。
※発表資料・動画は web にアップされているので、そちらを参考に分からない箇所を自分自身で調べるのが当然のようにも思います。事務局様負担が大きいようでしたら、上述の意見もお読み捨てください。

【その他：学術情報流通ベンダー、研究所職員、研究職、出版関係者、図書館員・大学非常勤講師、大学職員（研究推進系）】

- 最近の OA の動きについて、俯瞰的なご説明をいただいただけでなく、時折織り交ぜられる先生のお考えに共感することが多い、大変参考になるセミナーでした。ロンドンにある小さな BMC オフィスを訪ねて、Springer さんに買収される前の BMC の国内プロモーターとして BMC の国内機関契約を進めていたという経験もあり、OA の動き（運動）についてはクリエイティブ・コモンズと連動する部分も多くあるので、引き続き関心を寄せていきたいと思えます。ありがとうございました。
- 様々な視点で OA を概観できて勉強になりました。色々なステークホルダーを集めて、パネルディスカッションのような時間があっても面白かったと思えます。
- ダイヤモンド OA 普及への道のりは厳しいことは理解できました。
- 大変参考になりました。ありがとうございました。
- テーマに関して基本的な知識や情報を押さえつつ、新しい知見や情報も多く含まれ、大変勉強になりました。
- 質問の数の多さから、質疑応答の時間を増やしていただけると、皆さんの理解も進むように思えました。引き続き有益な情報を提供いただけますよう、よろしく願いいたします。

○今後、セミナーで取り上げてほしいテーマ ※公開の同意をいただいたものです。

【URA】

- 対応事例紹介をお聞きしたいです
- 本日のご講演とも少し関連があるかと思うのですが、研究評価に関する最新動向（日本）について知りたいです
- 研究者評価の現状と今後の展望

【大学職員（図書系）】

- 本学はまだ OA ポリシーの制定、DOI 付与も実現しておりません。大学図書館が目指すべきモデルケースを実例を挙げてご紹介いただきたいです。
- 非西欧、特にアジア圏の OA 動向
- 国が、グリーン OA に実効性を持たせるためにどのような施策を考えているのかが大変気になっています。次回第 3 回のセミナーを楽しみにしています。
- 転換契約、S2O などの APC に関する契約形態の具体的な事例について参加機関の話が聞きたいです。
- 即時 OA 化方針の小規模・中規模・大規模大のそれぞれの準備対応の具体例など。
- 2025 年度公的資金による研究成果の即時 OA 化には研究データも対象となる。研究データ公開の学内手続きの多くの事例、注意点などについて知りたい。
- 即時 OA 方針に対して、今後大学は何をすべきか
- 日本語文献（論文、書籍含む）の引用一被引用情報の電子化・オープン化について、現状を知りたいです。DOI を持たない文献も多いかと思いますが、NDL や CiNii が独自に付与している ID 等を活用して機械可読なデータとして共有する、といった取り組みは行われていないのでしょうか。
- 研究（者）評価の今後
- 購読モデル・OA モデル以外の学術情報流通の事例があったらお話をお聞きしてみたいです。
- 生成 AI の登場による広義の「情報」の扱いの変化、動きについて（今回のセミナー中では、こういうことかな？というお話だったかと思いますが、もう少し掘り下げて聞いてみたいようにも思います。）
- 選書、図書館間分担収集
- 第 2 回でも少々話題にあがりましたが、オープンアクセスの効果について取り上げて頂きたいです。ゴールドオープンアクセスは基本的には著者の経済的負担が増えるものの、通常の論文刊行よりも効果があると学内で説明する必要があるように思えます。

【その他：研究所職員、行政官、出版関係者、図書館員・大学非常勤講師、大学教員・研究職、大学職員（研究推進系）】

- Japan Institutional Gateway (JIG) について、日本の学会出版について、オープン化された研究データの活用事例
- 最新の各国の動向について、表層的ではなく、実態に即した情報が欲しいです。研究者の OA に対する率直な懸念がわかると良いです。
- 趣旨とズれるかもしれませんが、企業における OA の広がりについてもぜひ知りたいです（企業研究者による OA 出版、および学術研究者への影響など）。
- 分野による研究評価視点の違いを考慮した研究評価の改善に関する議論

- オープンアクセスあるいはオープンサイエンスが推進される中で、ハゲタカジャーナルのようなマイナス面が出てきたり、軽量査読や出版後査読といった形で研究成果が流通することが、科学の信頼性にどのような影響を与えるかに付いての議論
- 学術情報流通の話をする際に、出版社サイドの話を知りたいと思いました（国際的な出版社、日本の出版社）。ある意味、現状の学術情報流通の問題は研究者の欲望（評価）に起因するものであり、それに出版社が応えてきた結果だと思っています。それに伴って、出版社サイドもサービスの向上を図り、ビジネスモデルも構築してきたのであり、その蓄積/貢献を無視すべきではないと思います。
- オープンアクセスの国際動向について継続的に取り上げてほしい。

写真

